

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	原 圭寛
主な担当科目	教育原理,教職論,生涯学習概論Ⅰ,道徳指導法
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	本年は専任講師就任1年目となるため、前職との学生の傾向や専門性の違いに留意し、授業方式や教材を本学に合わせるように改善させながら授業を実施していくことを目標とする。前職は工科系の単科大学であり、技術・数学・情報・工業といった免許種向けの説明や例示を主体としていたが、これらを音楽向けのものに変えていくとともに、Teamsなども活用して学生とのコミュニケーションを円滑に進めたい。また、主に1年生を担当するため、教職課程の有する特性上、見込みのない学生を安易に合格させることの無いよう、指導と評価を徹底したい。
2023年の教育に関する自己評価	本年は前職との違いに留意しつつ、音楽に関する説明や例示を取り入れた教材の作成や、授業展開の改善を行うことができた。これらについては、各授業後に学生から集めているコメント等でも概ね好評を得た。授業は学生によるディスカッションやグループワークを中心とし、これらの報告を、Teamsを用いて共有することで、コミュニケーションも円滑に進めることができた。また成績評価についても、学生に評価ルーブリックを提示し、これに基づいて厳格な指導・実施を行うことができた。
2023年のFD活動に関する自己評価	FDについては、学内の各FD講演等に参加するとともに、大学教育学会年次大会及び課題研究集会、大学コンソーシアム八王子のFD・SDフォーラムにも参加し、広く情報収集に努めることができた。特に短大の「音楽と社会」のコース担任をするうえで、大学教育学会における社会人学生向けプログラムの紹介及び社会人学生の特性についての検討などは、有益な内容となった。また大学コンソーシアム八王子では、高大連携が主題の一つとなっており、教職課程を運営するうえで参考となる情報が多かった。
授業改善のために取り入れた研修内容	特に授業改善については、大学コンソーシアム八王子のFD・SDフォーラムにおいて紹介された、高等学校における「総合的な探究の時間」の評価ルーブリックの作成とその活用方法であった。当方の担当授業でもルーブリック評価を取り入れているが、高等学校での活用方法が分かったことで、ルーブリックの学生への説明の仕方やこれを用いた指導方法などについて示唆を得ることができた。

2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

教育原理については、本学期においては 2 クラスで展開したが、両クラスの評価を平均すると、Q1 が 3.49、Q2 が 3.90、Q3 が 3.94、Q4 が 3.37、Q5 が 3.16、Q6 が 3.57、Q7 が 3.78、Q8 が 2.97、Q9 が 3.27、Q10 が 3.36 であり、Q5・Q9 以外の項目において全体平均に比して±0.3 以内と、有意な差が見られなかった。Q5(全体平均比-0.46)・Q9(全体平均比-0.35)については、扱う内容の難解さからこのような結果になったと考えられる。しかし教職課程は扱う内容・難易度水準について教職コア・カリキュラムに従う必要があるため、これに応じた変更はせず、現状を維持する。

また A クラス・B クラスの間では、特に Q5・Q8・Q10 において大きな差(それぞれ 0.40、0.48、0.47)が見られた。しかしこのクラスごとの差異については、先述のように教職課程であること、また公平性の観点から、特にクラスごとに授業方法を変えるということは考えず、現状を維持する。

2)要望への対応・改善方策

ディスカッション主体の授業形態については概ね好評だった。要望としては、ディスカッションのグループ編成について、「固定にしてほしい」という声と「こまめに変えてほしい」という声があった。

3)今後の課題

本年度は就任 1 年目ということもあり、前任校との学生の性質の違いをつかむことに注力していた。およその傾向はつかめたため、これを基に次年度の授業運営や教材の改善に努めた。また、ディスカッションのグループ編成の方法については、学生とよく相談しながらグループ組み換えの時期・回数を検討したい。

しかし、教職課程の必修科目という性質上、扱う内容や難易度については、授業評価アンケートを基にした変更は行わず、基本的に現状を維持する。

以 上

2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

教職論については、本学期においては 2 クラスで展開したが、両クラスの評価を平均すると、Q1 が 3.47、Q2 が 3.84、Q3 が 3.88、Q4 が 3.65、Q5 が 3.43、Q6 が 3.61、Q7 が 3.49、Q8 が 3.11、Q9 が 3.62、Q10 が 3.65 であり、全ての項目において全体平均に比して ± 0.2 以内と、有意な差が見られなかった。また A クラス・B クラスの間でも、評価項目において大きな差はなかった。

筆者は教職論と教育原理の双方を担当しているが、全体として教職論のほうが教育原理よりもスコアが高く出る傾向にあった。これは対象学年が、教職論が大 2・短 1 であるのに対して教育原理が大 1・短 1 であることから、教育学により熟達した学生が受講している点、また教育原理よりも教職論のほうが扱う内容が具体的で容易である点がその要因として考えられる。

2)要望への対応・改善方策

グループワーク及び成果発表を行ったことが学生からは好評であったが、実際の成果発表の内容が芳しくなく、プレゼンテーションの工夫があまり見られないことが問題であった。プレゼンテーションの技術面及び内容面双方の向上に向けた取り組みを検討する必要がある。

3)今後の課題

筆者は次年度以降本科目の担当から外れるため、授業アンケートの結果及び上記考察を後任に引き継ぐこととする。

以 上

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

教育原理については、本学期においては 2 クラスで展開したが、両クラスの評価を平均すると、Q1 が 2.93、Q2 が 3.73、Q3 が 4.00、Q4 が 3.60、Q5 が 3.07、Q6 が 2.33、Q7 が 3.33、Q8 が 3.20、Q9 が 3.07、Q10 が 2.93 であり、Q1・Q5・Q6 については、全体平均を大きく下回る結果となったが、個別の回答を見ると評価が両極端(1 か 4)にわかれているため、学生個々の能力や扱う内容の難解さからこのような結果になったと考えられる。

しかし教職課程は扱う内容・難易度水準については、文部科学省が示す教職コアカリキュラムに従う必要があり、また免許の特性から他大学と揃える必要があるため、これに応じた変更はせず、現状を維持する。ただし Q6 については改善の余地があるため、次年度以降は試験をレポートに替え、回数・問題数も期末の 1 回 2 問から中間・期末の各 1 問へと変更することで、フィードバックを活かす機会を増やしたい。

2)要望への対応・改善方策

授業の難易度の高さを理由も考えずに非難するようなコメントが見られたが、上述の理由によりこれには対応せず、現状を維持する。また、このような難易度の高さを理由に教職を諦める学生が多数いるとのコメントもあったが、自身の適性を早めに見極めることができているという点から、これはむしろ肯定的にとらえるべきと考える。

前期の同科目の反省も踏まえ、音大に特化した教材の修正等を進め、この点については授業中の反応も良くなっていたため、継続して取り組みたい。

3)今後の課題

上述の分析を踏まえ、次年度以降は試験の方式を変更することで対応したい。しかし授業全体の方針や難易度設定については、上述の理由により現状を維持する。

以 上

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

生涯学習概論Ⅰについては今期が初の担当となり、フルオンデマンドでの開講となった。アンケートの結果は、Q5「自分はこの授業に興味や関心を持って出席している」、Q6「授業は学修成果を得るための工夫がなされている」、Q7「授業は学生とのコミュニケーションに努めながら進められている」、Q9「自分はこの授業を受けて、ものの見方や考え方が広がった」、Q10「自分はこの授業に満足している」が平均とより大きく下回る結果となった。

Q5「自分はこの授業に興味や関心を持って出席している」・Q6「授業は学修成果を得るための工夫がなされている」・Q7「授業は学生とのコミュニケーションに努めながら進められている」については、フルオンデマンドによる学生と教員とのコミュニケーション不足が大きな原因となったと考えられる。しかし時間割編成の都合上、対面授業を導入することは困難なため、Teams 上で交流の機会を増やす、「学習さぼーと」の利用を促すなどして、改善を試みたい。

Q9「自分はこの授業を受けて、ものの見方や考え方が広がった」・Q10「自分はこの授業に満足している」については、今回採用した教科書の内容的な問題もあったと考えられるため、次年度は教科書を変更するとともに、音大に特化した具体例の解説などができるように、改善に努めたい。

2)要望への対応・改善方策

個別のコメントでも、授業の難易度やレポートのフィードバックについて不満が見られた。これらについては、各授業のコメントフォームでの質問の促進や、「学習さぼーと」の利用を通して対面での個別指導を行うなどの対応を取りたい。

3)今後の課題

上述の分析を踏まえ、次年度は教科書の変更及び教材の改善、「学習さぼーと」の利用促進、Teams でのコミュニケーションの強化の3点を重点的に改善したい。

以 上

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

道徳指導法については、本学期においては 2 クラスで展開したが、両クラスの評価を平均すると、Q1 が 2.60、Q2 が 3.33、Q3 が 3.80、Q4 が 3.33、Q5 が 2.33、Q6 が 2.40、Q7 が 2.87、Q8 が 2.93、Q9 が 2.33、Q10 が 2.27 であり、Q1・Q5・Q6・Q7・Q9・Q10 については、全体平均を大きく下回る結果となったが、回答の件数を見ると Q10 を除き評価が「4」から「1」まで満遍なくついていたため、学生個々の能力や扱う内容の難解さからこのような結果になったと考えられる。Q10 については「1」が非常に多かったが、特に授業の特性や難易度の高さからこのような結果になったと考えられる。

しかし教職課程は扱う内容・難易度水準については、文部科学省が示す教職コアカリキュラムに従う必要があり、また免許の特性から他大学と揃える必要があるため、これに応じた変更はせず、現状を維持する。ただし Q6 については改善の余地があるため、次年度以降は試験をレポートに代えて個別指導も取り入れるとともに、模擬授業を行うなどの対応を取りたい。

2)要望への対応・改善方策

授業の難易度の高さを理由も考えずに非難するようなコメントが見られたが、上述の理由によりこれには対応せず、現状を維持する。また、このような難易度の高さを理由に教職を諦める学生が多数いるとのコメントもあったが、自身の適性を早めに見極めることができているという点から、これはむしろ肯定的にとらえるべきと考える。

また、欠席による減点について、体調不良も減点されるのかなどのコメントがあったが、事前に連絡があった場合は採点時に事情を踏まえて考慮する旨をガイダンス時に伝えており、実際に体調不良による欠席のみが原因で不合格となった例はない。

3)今後の課題

上述の分析を踏まえ、次年度以降は試験等の方式を変更することで対応したい。しかし授業全体の方針や難易度設定については、上述の理由により現状を維持する。

以 上